

地震本部の成果物の配色方針について（案）

資料 政58-(3)

【基本的な方針】



- 使用する色は、描画対象に応じて上記のスケールから適宜選択する。
（※ 配色の選択の際には、安心情報とならないよう注意すること。）
- 背景色（陸地、海）は、白色、灰色、水色の中から選択する。
- 「不明」は灰色とする。

【適用範囲】

「地震本部の成果物」のうち、リスクやハザードの大きさを示す図

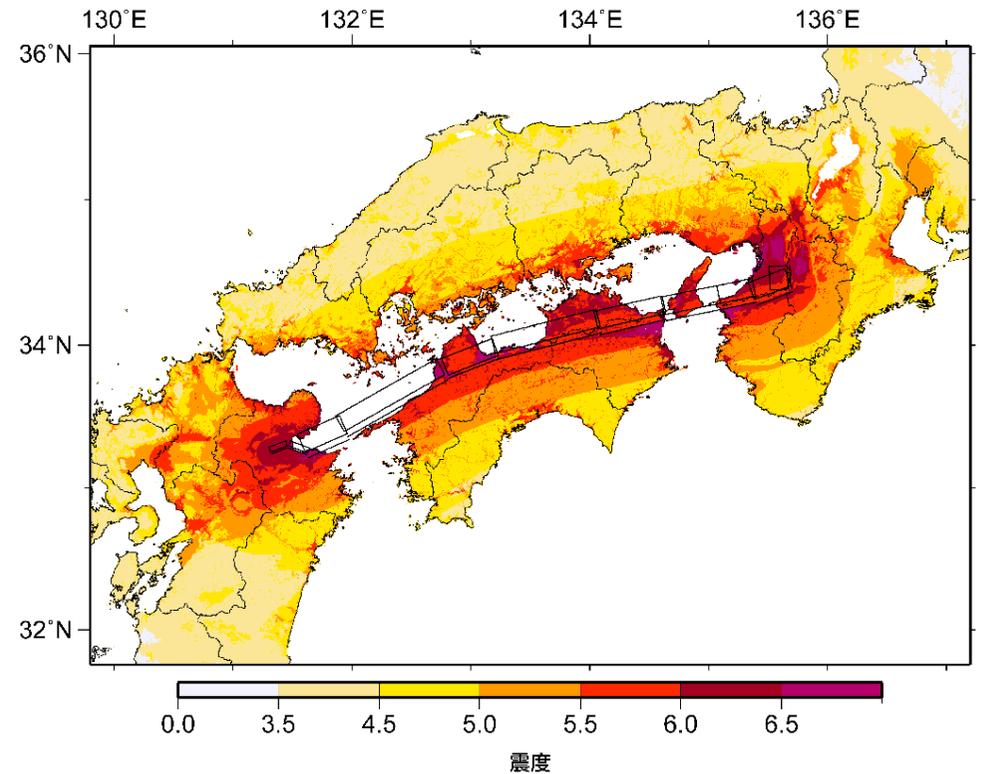
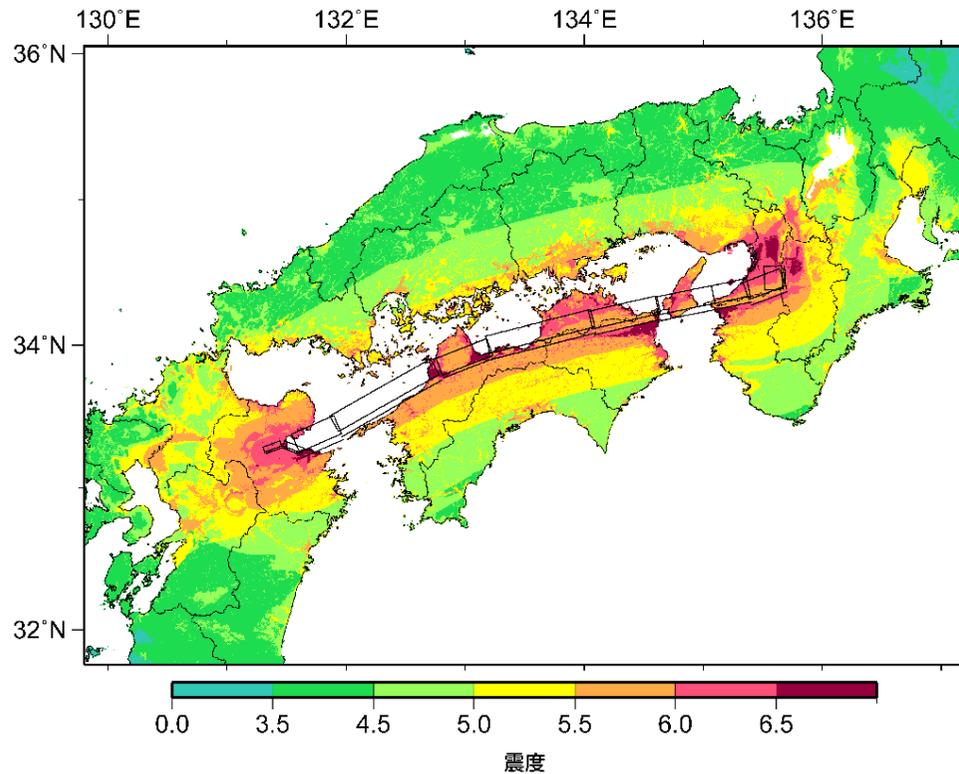
（※正負の値をとる図、又は他機関で色彩が定義された図は含まない。）

【その他】

- 連続表示についてはなるべく避け、段階表示とする。
- 現状、9段階以上の色分けとなっている図は、適宜段階を見直し9段階以内とする。
- 上記の方針は今後作成する図から適用する。
- 上記の方針に従うことで視認性を損なうと判断される図については、個別に検討する。

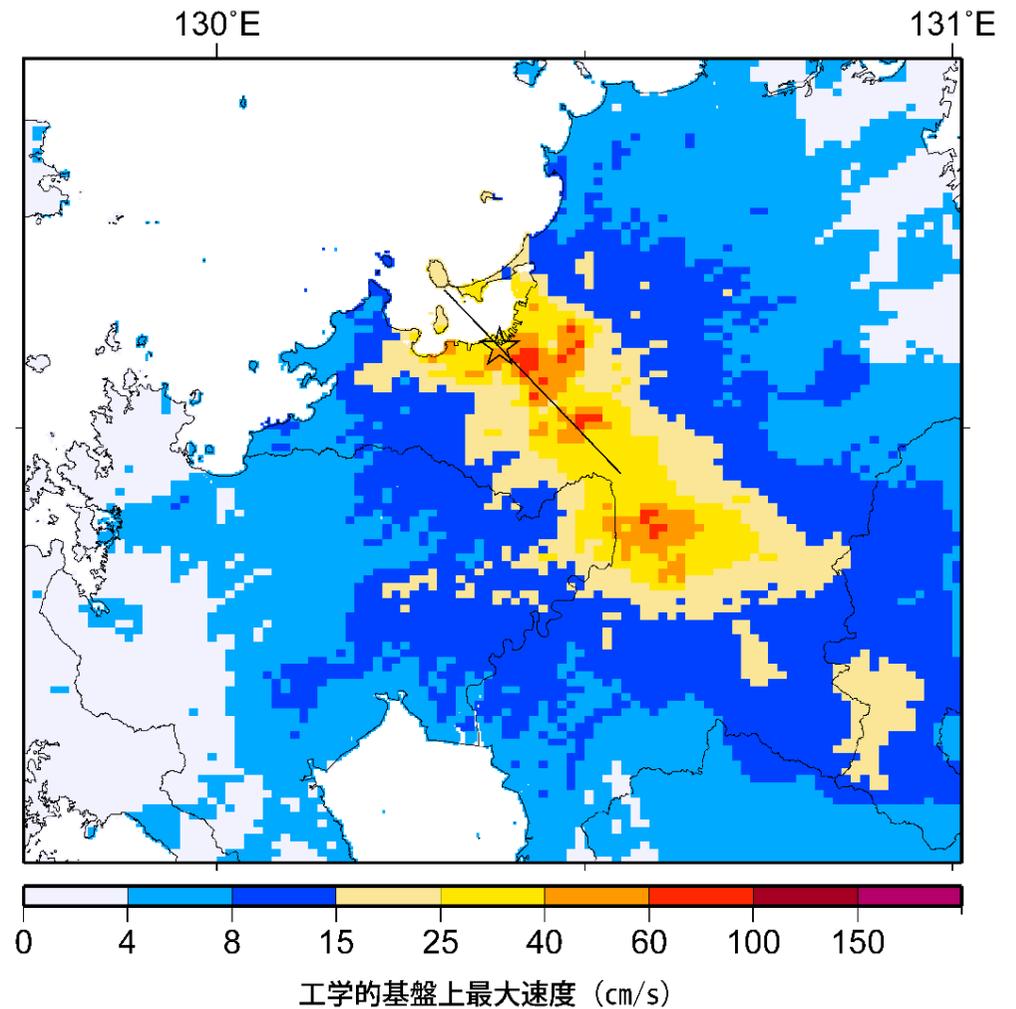
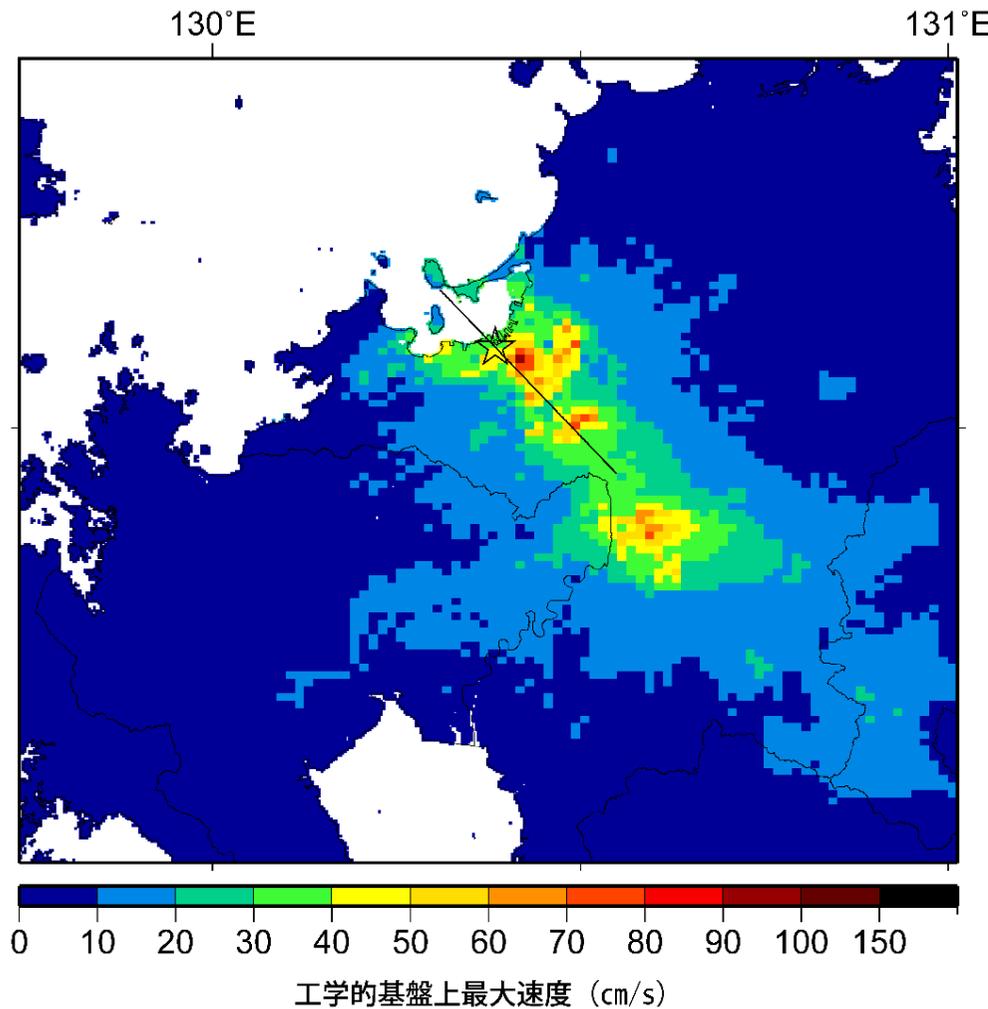
配色の変更イメージ（その1）

中央構造線断層帯
(全体が同時に活動・中角度)
簡便法による地表震度分布



配色の変更イメージ (その2)

警固断層帯の地震を想定した強震動評価
工学的基盤上の最大速度分布(ケース1b)



配色の変更イメージ (その3)

主要活断層の評価結果

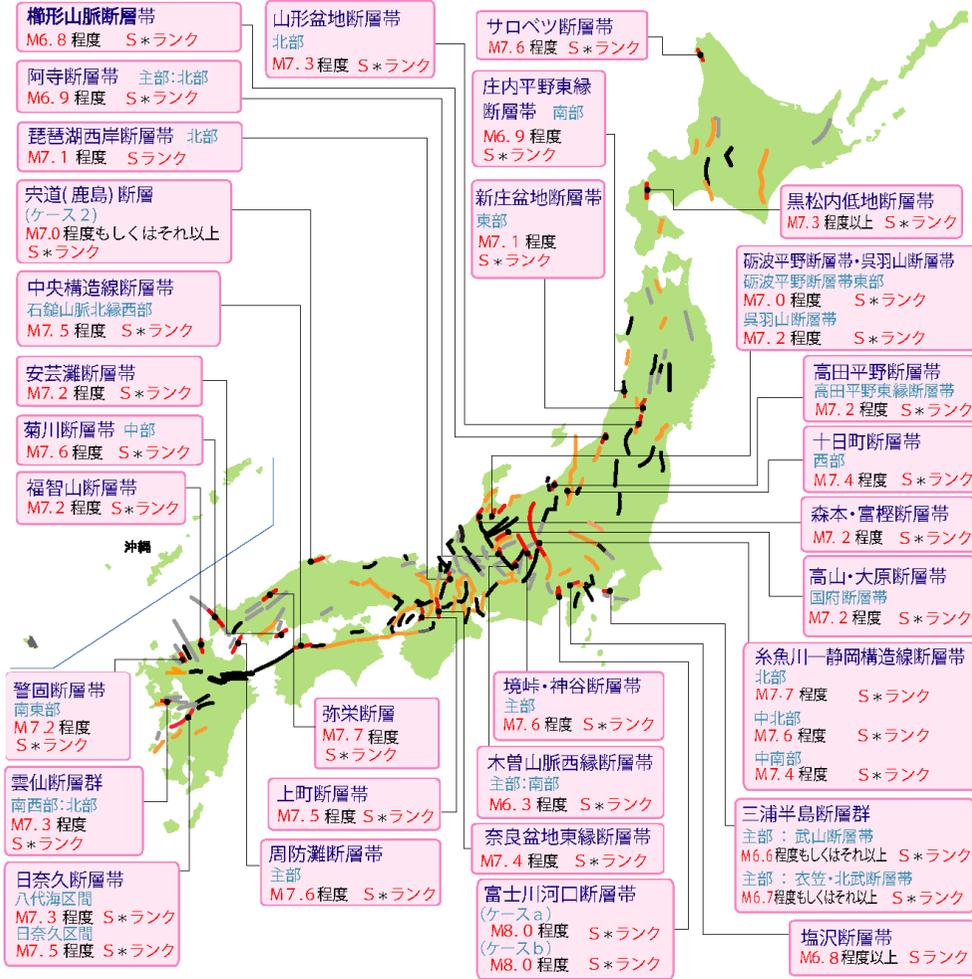
2019年2月26日公表

凡例:

- Sランク(高い): 30年以内の地震発生確率が3%以上
- Aランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満
- Zランク: 30年以内の地震発生確率が0.1%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

(注) 地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに*を付記する。
※Sランク、Aランク、Zランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。

ランクの算定基準日は2019年1月1日



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

2019年2月26日公表

凡例:

- Sランク(高い): 30年以内の地震発生確率が3%以上
- Aランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満
- Zランク: 30年以内の地震発生確率が0.1%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

(注) 地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに*を付記する。
※Sランク、Aランク、Zランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。

ランクの算定基準日は2019年1月1日



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。